

### 第3回 九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成24年7月6日 13:30~15:40

場所：九州大学箱崎キャンパス 創立五十周年記念講堂大会議室

#### 会次第

1. 開会
2. 委員変更について
3. まちづくりの方針案および導入機能の検討について
4. 質疑及び意見交換
5. 閉会

#### 議事録

##### 1. 開会

事務局 (岡野)	<p>それでは、委員の皆様全員揃われたようですので、早速進めさせていただきたいと思います。今日は、お暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>開会に先立ちまして、事務局からご連絡申し上げます。</p> <p>はじめに本日お配りしております資料の確認をさせていただきたいと思います。本日お手元にお配りしました資料ですが、上から順番に、会議次第、それから座席表、資料1としまして委員名簿、資料2-1としまして第3回委員会資料、資料2-2としまして第3回委員会参考資料の5点となっております。</p> <p>皆様全てお手元に揃っていらっしゃいますでしょうか。よろしければ次に進めさせていただきます。</p> <p>本日の会議も、これまでと同様、公開ということでございます。本日傍聴される方につきましては、受付にてお配りしました「傍聴にあたっての注意事項」に記載されている事項を順守していただき、委員会の円滑な運営にご協力いただきますようお願いいたします。特に、携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りいただくようお願いいたします。</p> <p>また、報道関係の皆様におかれましても、委員の皆様のご発言や議論、一般の方の傍聴の妨げにならないよう十分にご配慮をお願いいたします。</p> <p>ここで、議事にうつる前に、カメラ等での撮影がございましたら時間を取らせていただきます。</p>
	(カメラ撮影)
事務局 (岡野)	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、これより会議の進行は出口委員長をお願いいたします。</p>
出口委員長	<p>今日は大変蒸し暑い中、会場まで足を運んでいただき、ありがとうございます。この委員会は今回で3回目になりますが、本日は1回目、2回目の内容も踏まえ、まちづくりの方針及びその導入機能の検討に関して、意見交換をさせていただきたいと思っております。</p> <p>また、これまで事務局と今後の進め方についても協議を進めておりますが、委員の方からも色々進め方についてご意見をいただきました。特に、若い方や女性の意見も積極的に聞く機会を作るべきではないかというご意見もございましたので、今日改め</p>

	<p>てその辺りについて、事務局から提案があると思います。できましたら、この3回の委員会資料を上手く取りまとめて、パブリックコメントなどの意見を寄せていただく機会をつくっていただこうと思っております。本日はそのご相談も、議題に挙げさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>あまり長々喋ってる時間ありませんので、私の挨拶はこの程度にさせていただきます、早速、議題に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議題は、お手元の議事次第にございますが、2番目が「委員変更について」、それから3番目が「まちづくりの方針案及び導入機能の検討等について」ということでございます。この2番目と3番目を続けて、事務局の方から説明あるいはご紹介をいただき、最後にまとめて4番目の「質疑及び意見交換」の時間を設けたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、早速ですが、議事2の「委員変更について」、事務局の方でお願いいたします。</p>
<b>2. 委員変更について</b>	
事務局 (岡野)	はい。それでは、議事2の「委員変更について」ですが、今回人事異動で九州大学の委員が変更となっております。九州大学企画部長、三浦委員です。一言ご挨拶をお願いいたします。
三浦委員	九州大学企画部の三浦でございます。第2回までは、井戸が委員として参加させていただいておりましたけれども、7月1日付で異動いたしましたので、第3回の本日から私が委員として参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局 (岡野)	ありがとうございました。 なお、今回、福岡県企画・地域振興部の吉岡委員については、ご欠席ですが、福岡県より上玉利企画監に代理でのご出席を賜っております。
上玉利委員	課長が業務の都合で参加できませんので、代理とさせていただきます。よろしくお願いいたします。
事務局 (岡野)	ありがとうございました。委員変更の報告及び欠席委員の報告については以上でございます。 続きまして、議事3「まちづくりの方針案及び導入機能の検討等について」を説明させていただきます。 はじめに、今回の検討内容についてお手元の資料2-1、第3回委員会資料に沿って、福岡市九大跡地計画課の林課長に説明をお願いいたします。 説明している資料の該当ページを前方スクリーンに映しております。お手元の資料と同じものですので、文字などの映りの小さい箇所は、お手元の資料でご確認いただきますようお願いいたします。では、林課長お願いします。
<b>3. まちづくりの方針案及び導入機能の検討等について</b>	
<b>事務局説明</b>	
事務局 (林)	では、代わりまして九大跡地計画課長の林です。 お手元の資料2-1で、ご説明をさせていただきます。 2枚めくっていただきますと、委員会検討のフロー、第3回委員会の検討内容というのが出てきますので、そちらの方からご説明をさしあげたいと思います。 先程、出口委員長からもご説明いただきましたけれども、「まちづくり方針案の検討」という赤で四角囲みをしているところ、これが第3回で皆さんのご意見を基に、ある程度まとめて、方向を付けていきたいというところでございます。 ここでまとめましたら、事務局からの提案の一つになりますけれども、以前第2回委員会の際に、50年間のまちづくりにもかかわらず、若手の声がないということもいただきましたし、外に向かってもっとアナウンスすべきだというご意見もいただきましたので、これまで議論いただいたものを取りまとめて市民意見の募集をやらせて

いただいて、それを今後検討予定の、最後に今日ご説明させていただきます土地利用のゾーニングも含めた導入機能や都市基盤及び空間構成のあり方の検討というようなところに反映させていかせていただきたいと思います。それをあと何回か議論させていただいた上で、将来ビジョンとしてまとめていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、ページ数でいうと一枚開いていただいて2ページをよろしく願います。そちらにつきましては、第2回目一番最後の資料で、地区の優位性、課題とかを線で、このまちづくりの方針に結び付けていたものがございましたけれども、それを少しまとめたものでございます。

見ていただきたいのは、一番右側の「まちづくりの方針（案）」になりますけれど、前回の委員会において、この部分に「まちづくり」という言葉があまりにも並び過ぎているとか、6つ方針を出していたんですけれども、その方針がメリハリがないというようなご意見をいただきました。

それで、再度整理をさせていただいて、この5つに集約をさせていただいております。上から読ませていただきますと、1番目が「福岡市の持続的な成長に資する新たな活力・交流を生み出す」ということで、第2回目の資料では、「交流」というキーワードと「賑わい、活力」というキーワードでちょっと分けておりましたけれども、これを一つにさせていただいております。

2番目には、「九州大学が存在してきた地として、充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる」ということを挙げております。

3番目は、「高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、安全・安心・快適で健やかに暮らす」という目標を挙げております。で、この3つが箱崎にこれから導入するのにふさわしい機能じゃないかということで、際立たせてこの3つを取り上げていきたいと思っておりますけれども、そのベースになる考え方として、「跡地利用にあたって踏まえるべき視点」ということで、基本的な考え方というのを4と5で、別のかたちでまとめさせていただいております。

4番目として、「千年のまち、大学百年の歴史文化資源を大切にすること」。

5番目として、「次世代の環境技術や豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる」ということです。

ということで、実は一番下に、このまちづくりの方針のキーワードを今の5つの関係性を示しているものを、模式的に作っておりますので、基本的な考え方の「歴史文化」や「環境・エネルギー」というのは全体の下地としてしっかりあって、そして福岡を支える「成長・活力・交流」という話、人を育てる「教育・研究」という話、「安全・安心・健やかな暮らし」という部分が、この箱崎の中で導入機能として、方向としてあるというような、こういう考え方を示させていただいております。

3ページをお願いします。3ページには、この一つ一つ、これから5つの方針を説明いたしますが、実は今回皆さんで共通認識を持っていただきたい、固めていただきたいという部分につきましては、左上の方針1の先程説明しました言葉の下にある四角で囲まれた文言ですね。この1でありましたら、「福岡都市部に近い大規模な土地利用が可能な土地であり、交通利便性の高い立地特性を生かしながら、『新たな産業・雇用の創出』『広域連携拠点づくり』『交流と賑わいの創出』等を進め、福岡市の持続的な成長に貢献する、新たな活力・交流を生み出すまちを目指します。」というものを、箱崎の地域として、箱崎の跡地のまちづくりとして、固めていきたいということでございます。

ただし、この言葉だけでは非常に分かりにくいので、どういった機能が考えられるんだろうかという例示をしたのが、その下の1)から3)というようなことでございます。で、その1)から3)のところを、もう少しイメージを持って頂けるように実際の先進事例を右の方に載せさせていただいております。

こういったことで、言葉からくる意味合いというのを少し皆さんでイメージを共通化していただけたらということで、資料を作らさせていただいております。ちょっと右側の事例につきましては、適当な事例がすんなりないというのもございますので、か

なり規模やスケールが大きかったりするところもなきにしもあらずのところがありますので、こういったものをこの地区に全部導入するというような話ではございません。その辺りは誤解のないようによくお願いします。

3ページに戻りますと、1)として、「新たな産業・雇用の場の創出」ということで、こういった部分で、新産業創造に関わる企業やベンチャーの誘致など、新たな雇用の場を創出するということを謳っております。その中で、業務商業機能ということも書いております。

2)としましては、「立地特性を生かした広域連携拠点づくり」として、道州制導入など広域行政の見直しや国土全体の危機管理体制のあり方を踏まえた広域行政機能等の機能集積を目指すということを書いております。

3)としましては、この立地を生かして、「文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流と賑わいの創出」ということを書いておまして、広域からの集客を見込んだ文化・スポーツ・コンベンション等を支援する施設と書いております。これの事例としまして、右の方で書いてますけれども、広域行政機能につきましては、さいたま市に国の合同庁舎等が集まっている例とかがございますので、そういったものを挙げさせていただいております。また、スポーツ・コンベンションについては、今年10月、仙台にオープンする予定と聞いていますゼビオアリーナ。これは、ちょっと文章に訂正がございますけれど、元々の施設は三菱UFJリースが定期借地で借り上げて、施設を建設し、ゼビオという民間会社が運営するというで聞いており、民間の活力を使った施設でございます。市とか行政とかだけではなくて、こういった民間の活力を使った施設の誘致というのも考えられるのではないかということの例でございます。

次のページの4ページお願いします。こちらには「充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる」ということで、下囲みの中に、「九州の最高学府『九州大学』が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、「新たな高等教育・研究機関の導入」「留学生・研究者等の受け入れ環境の活用」等を進め、充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てるまちを目指します」と書いてございます。

で、どういったことかと申しますと、1)として、「教育・研究の場としての新たな高等教育機関・研究機関の導入」ということで、新たな教育研究機関として、大学等の高等教育機関の誘致や初等・中等教育が連携した小中及び中高一貫校などということのを例として、書かせていただいております。また、研究・開発機能としましては、九大の病院等と連携した医療研究施設というところ等も書かせていただいております。

2)としましては、「これまでの外国人留学生、研究者等の受け入れ環境を活用したもの」ということで、これまでも一定の受け入れ環境が整っているということを生かして、外国人研究者や留学生が暮らし、活動する場の創出を目指しているということ、外国人研究者を対象とした居住施設という部分などを書かせていただいております。

その例としましては、大分の立命館アジア太平洋大学を事例として載せておまして、ここは世界中から集まった留学生が暮らし、国内外の学生間で独自の国際交流を深めているという施設でございます。

また「研究・開発機能、高度医療施設との連携の事例」として、神戸市で行なわれております、ポートアイランドの先進医療技術の研究開発拠点ということで、ここは産学連携によって、医療関連の産業集積を図っているところの事例を挙げております。

5ページをお願いいたします。こちらについては「高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、安全・安心・快適で健やかに暮らす」ということで、「災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、『防災活動の場の創出』『医療・福祉・健康づくり環境の充実』『快適な居住環境の創出』、そして、安全・安心・快適で健やかに暮らすことができるまちを目指す」ということを書かせていただいております。

これが具体的にどういうイメージかといいますと、1)で「災害に対応できる防災活動の場の創出」ということで、こちらは福岡が津波の危険性が少ないことで、箱崎が警固断層から離れていること等から、災害発生時の緊急時における復旧・復興物資の中継基地となる広域防災拠点や市民の避難場所などの防災活動の場の創出を目指す、ということを書いてございます。また、防災機能だけではなく、九州大学には大学病院という防災時に高い機能を発揮することが期待出来る病院がございまして、そういった連携も視野に入れてということで書いてございます。

また、九大と連携した医療福祉施設の誘導ということで、それらを生かした快適な住環境を創出するというのを、2)でいっております。こちらにつきましては、医療・福祉施設や健康増進機能ということで挙げております。

事例をご説明しますと、1)の「防災機能、大規模災害時の本部機能の事例」としまして、東京臨海の防災公園を示してございます。これは、大規模災害時に広域的な指令機能を受け持つヘッドクォーターになるということと、平常時は防災に関する学習訓練、情報発信機能を備えており、加えて緑の拠点として、にぎわいと交流の空間を形成していますというような事例です。

また、病院との連携のことにつきましては、医療・福祉機能と連携した住環境整備の事例としまして、大阪市にあります医療機関と隣接している立地を生かした安全で快適な住環境を整備するということで、医療連携及び生活サービスのネットワークで、都心生活を支えるまちづくりをやっているところを示しております。

また、最後の「健康増進機能の事例」としましては、健康長寿都市「柏の葉キャンパス」ということで、こちらにつきましては、環境未来都市構想の中で、「公民学連携による自律した都市経営の課題解決モデルの一つとして、地域の包括的な健康維持拠点、トータルヘルスケアステーションというものをつくり、地域の健康維持・リハビリの拠点ということで、活動されているという事例を載せさせていただいております。

あと、3)として、こちらは居住ということで、もちろん身近な生活利便機能、居住機能というのが、交通アクセスのポテンシャルを生かしたものとして可能性があるのではないかとということで、書かせていただいております。

6ページをお願いします。今までの3つがこの箱崎にふさわしいものとして、際立たせるものとして、導入していく機能ということでご説明しましたけれども、方針4と5というのが、先程も言いましたが、このまちをつくっていく考え方を基本においた表現をしていただいております。

4)については、千年のまち、大学百年ということ、歴史文化資源と捉えて、それを大切にしていこうと。具体的に申しますと、「千年以上の歴史を誇る筥崎宮や旧箱崎宿の町家と、百年の時を刻んだ箱崎キャンパスなど、箱崎のまち全体が有する『まちの生い立ちの継承』『九州大学の近代建築物の活用』の検討を進めながら、歴史文化資源を大切にするまちを目指す」ということでございます。

このあたりにつきましては、第1回委員会でもご説明いただきました地元4校区からのご提案や、九大さんから、また、福岡アジア都市研究所からの提案とかもいただいておりますけれども、そういった考え方も基に、整理をさせていただいているところでございます。

1)としまして、「周辺の歴史文化資源を連携するまちなど、まちの生い立ちを継承する」ということで、「箱崎地区は、古くは筥崎宮の門前町、糟屋郡の政治・経済の中心地、さらに明治以降は九州大学のある学問の殿堂として、1000年以上の歴史を誇るまち。この歴史、伝統、文化のある箱崎のまちの生い立ちを踏まえて、筥崎宮から唐津街道、地蔵松原道等の歴史的・文化的な地域資源を活用するなど、地域の個性を生かし、歴史文化を継承したまちを目指します」ということを書いてございます。こういった実際の歴史的資源というのを、今後も町家として残していくとか、そういった活動と相俟って、ちょうど今「箱崎そうつくマップ」というのを、作りたてのものをお持ちいただいておりますので、皆さんのお手元に配布してございますものを、箱崎委員の方から一言ご説明いただけますでしょうか。

箱嶋委員	<p>ご説明させていただきます。まだ、印刷できたばかりで、申し訳ありませんけれどもお配りしております。まず「そうつく」という意味は、箱崎を歩き回るということで、そういうネーミングでつくってます。今、ご説明ありました箱崎の歴史的な建物とか管崎宮周辺、それから祠、そういうものを箱崎の地域資産として、それを多くの方に見ていただいて、箱崎というまちがこういうものだということを知っていただきたいということからこのマップをつくりました。</p> <p>今から色々な場所で配布をと思っておりますけれども、こういうかたちで箱崎というものが1000年以上歴史があったまちだということを、委員の皆さんにはちょっと頭の中に置いていただきながらと思って、今日は配布させていただきました。よろしくをお願いします。</p>
事務局 (林)	<p>ありがとうございました。</p> <p>こういった活動も含めて、歴史的な資源のネットワークをしていこうというのが、右の方に書いてある事例でございます。</p> <p>また、2)には、「九州大学の歴史文化資源の活用」ということで、大正から昭和初期にかけて建築され、特徴的な意匠を有する校舎が残っているために、これを活用、検討していきたいということで、右の方には、全面活用、全面保存して活用した例、また、近代建築物を部分的に保存した例を書いてございます。</p> <p>7ページをお願いします。こちらには「九州大学の環境技術と豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる」ということを書いてございます。「地域の貴重な緑の空間であるキャンパス内の既存樹木を生かすとともに、九州大学の先進的な環境技術を活用して、『低炭素』で『水や資源を生かし』『緑・水辺との共生』を進め、環境と共生し、持続可能なまちの形成を目指す」ということを書かせていただいております。</p> <p>これにつきましては、1)として「低炭素なまちの創造」ということで、エネルギーマネジメントや九大さんの方でやられています再生可能エネルギーの取り組み等も事例として載せさせていただいております。</p> <p>また、「水資源を生かすまちの創造」ということで、水についてはちょっと弱点をもっています福岡市でございますので、中水道施設の事例も挙げさせていただいております。</p> <p>3)には、「箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造」ということを書いてございます。これにつきましては、箱崎キャンパスの既存樹木を踏まえた上で、緑の配置を行うというふうなことや、住民などの多様な主体による緑の管理の仕組みを検討していった、「地蔵松原と称された松林などの既存樹木の保存・活用」や、「多々良川、宇美川等の水辺を繋ぐ歩行者回遊導線の創設」というところとかも書いてございます。</p> <p>以上のような部分で、方針として固めていただきたい部分。で、それを補うためイメージしていただくための資料のご説明になります。</p> <p>1枚めくっていただきまして、8ページをお願いいたします。こちらからは、将来ビジョンの構成案というものをご説明させていただくところでございます。これは、まちづくりの方針をご説明させていただいておりますけれども、全体的にどう位置付けられるのかと。まちづくりの方針というのがどういうふうに描かれていくかというところが分かりにくいということがございまして、一度全体像を示させていただくということで、書かせていただいております。</p> <p>8ページの左側につきましては、「将来ビジョンの検討委員会の目的」で、第1回目にやりました、検討委員会の要綱、第2条の目的の部分抜いてございます。元々の目的としては、「計画的なまちづくりと円滑な跡地処分に向けて、その基本的な枠組みを示す」というふうになってございます。この基本的な枠組みというのが、どういうことかというのが右の方で構成案として示させていただいております。まず、1番の「将来ビジョン策定の目的」、2番の「地区の課題の優位性」というところを、1回目、2回目あたりでさせていただきます。で、今日の本題の「まち</p>

づくりの方針」というのを、3回目ぐらいまででまとめた上で、次の段階として、「導入機能の検討」、「都市基盤のあり方」、「空間構成のあり方」、そして、「土地利用のゾーニング」というようなことを一まとめにしたものを、今後検討を進めていきたいということでございます。

あと残りは「跡地処分の進め方」や「跡地利用を進める上での課題」というような構成で全体ビジョンを構成したいと考えております。

点線の赤囲みの部分につきまして、9ページに「土地利用のゾーニング(イメージ)」というものを載せて、もう少しイメージをつけていただくということで、資料を用意してございます。これにつきましては、まだ本委員会で議論をされたものではないので、今までの色んなご意見を基に、事務局でいちおう作成した土地利用の案、イメージです、ということをお話させていただいているところで、今後しっかり議論をして、これを取りまとめていきますという注意書きを書かせていただいているのが、上の部分でございます。

とは言いましても、こういった導入機能の検討、都市基盤のあり方、空間構成のあり方等がどういうふう最終的に導入のイメージに落ち込むのかということ、少しイメージしてもらおうと思って、こういうふうに作ってございます。ちなみに右側には、参考で、六本松の九大跡地の処分の時の土地利用のゾーニング例を付けさせていただきます。

では、ちょっと見にくいですがけれども、このゾーニング案のイメージについて少しどうしてこういうふうな配置を一つの例として考えたかということをお話させていただきます。

まず、位置関係につきましては、少し勝手に解釈をさせていただきますけれども、教育の部分につきましては、歴史や緑、水辺ということを意識しながら、教育環境を整えていくということや、研究として九大病院の南側に近いもの等の連携が必要だろうということとか、で、特にこの南側には工学部本館や事務所がございまして、そういったものとの歴史的繋がりというのが、箱崎の宮崎宮から門前町として栄えていたその部分で、特に連携するべきところじゃないかということで、南側に配置をしてみたいような考え方でございます。

それと、3番目の安全・安心・健やかゾーンをこういったところに、いちおう配置してございますけれども、これにつきましては、住宅ということで、少し航空路、進入路から外れた方がよいということも考慮して、あと水辺との関係、緑との関係というのも大事にすると、こういうところになるんじゃないかと。また、病院、研究したところとの連携をした新しい住宅づくりができるんじゃないかというふうなことを考えてございます。

そして1番目の成長活力交流ゾーンにつきましては、この部分でやはり国道3号線に面したところということで、交通の便も良いということで、こういったところに業務や中枢機能のバックアップ機能、そういったところも含めたところがあることが一つ考えられるんじゃないかというふうなことを書いてございます。

その他に、貝塚駅や箱崎九大前駅、箱崎宮駅というような、こういった駅周辺をまちづくりにどう生かしていけるかが大事であるということ。基盤につきましては、東西を結ぶ道路基盤ということも今後必要になってくるんじゃないかということ。それと、先程も申しましたけれど、水辺との連携ということもまたあるんじゃないかと。それと、今の学内の緑を繋ぐ歩行者の動線ということも、今の既存の樹木とかを生かしながら考えていったらどうかというような意味でつくっているイメージ図でございます。

こうしたものを少し全体の構成の繋がりとして、頭に入れていただきながら、今日の議論を進めていただいたらありがたいと思っております。

説明については以上です。

#### 4. 質疑および意見交換

出口委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>今ご説明していただきました内容全般について、委員の皆様から質問ご意見などいただければと思っておりますが、今回の資料も含め、整理したもので広く市民意見を募集したいということがございます。あまり案がまとまってしまってから意見を募集するよりは、早い時期に市民全体に対してアピールも含めて実施した方がいいのではないかとのご意見もいただきましたし、特に、若い人や女性の意見を求めてはどうかという斉藤委員からの意見もございました。特に、この九大跡地は、地元の方にとって重要なのはもちろんのことですが、福岡市全体、市民全体からみても重要な土地だと思います。そのためにも、広く市民から意見を募集したいということです。タイミングとしてはいつごろになるのでしょうか。</p>
事務局(林)	<p>8月後半～9月あたりまでの間にスタートできればと思っております。次回委員会前にはさせていただきたいと思えます。</p>
出口委員長	<p>次回の委員会にはまとめていただくことはできるのでしょうか。</p>
事務局(林)	<p>はい、そのスケジュールで考えております。</p>
出口委員長	<p>以上の点に対してのご意見もいただければと思えます。前回は課題の整理が中心で、課題についてのご意見いただきました。また、方針案については、もっと整理すべきではないかといった、文言の使い方も含めた厳しいご意見をいただきましたので、方針を改めて整理して本日整理していただきました。方針を簡単な文章で説明していただきたいという意見を踏まえ、方針の下に課題との対応を含めた箱崎ならではの方針の実現イメージを文章として説明していただいています。また、これらの方針の下で、跡地利用の際にどのような可能性があるのかということを検討するために、可能性を列挙していただいたという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局(林)	<p>考えられるご要望のあった可能性をとりまとめているイメージでございます。</p>
委員長	<p>全部が入るということではないですね</p>
事務局(林)	<p>そうです。</p>
出口委員長	<p>第2回目の時には課題の整理の仕方と方針についてのご意見いただき、第1回目はあまり時間がなかったのですが、委員の方からおひとりずつ、考え方、取り組みについてのご意見いただきましたし、また地元の方から数ページにわたるご提案いただきましたので、そのなかのエッセンスを読み解き、この中に反映していただくように事務局にお願いし、方針の中に組み込む形で整理していただきました。これらについても、ご意見をいただければと思えますので、よろしくをお願いします。</p> <p>イメージが最後に出てきましたが、イメージはあくまでもイメージとして、ゾーニングプラス課題図ということですね。地域の課題も含めたイメージということですね。</p>
事務局(林)	<p>目指すべき方向が具体化されていけませんので、そのあたりは課題として挙げさせていただいております。</p>
出口委員長	<p>それでは、どの部分からでも結構ですので、ご質問、ご意見をお願いします。</p>
斉藤委員	<p>市民意見の募集について、非常にありがたい話で私も賛成です。いろんな質問内容が考えられると思えます。土地の所有者である九大には失礼かもしれませんが、どん</p>



	<p>な思いでビジョンを考えているのか、どんな考えで売られるのかも市民の皆さんや若い人にも考えていただいて、その部分の意見が出てくるようなアンケート項目があると思います。</p> <p>具体的に言いますと、我々4校区が出した案がありますが、考え方というのも我々は出しています。その部分はこの委員会の中でも議論していただけるとありがたいと思うのですが、第1回目も出しましたが、上記の経緯にも鑑み、移転跡地の利用については、伝統と文化溢れる環境や、連帯感のある地域社会を基調にして、緑豊かで美しく住み心地のよい、みんなが誇りと愛着を持って、安心して暮らせるまちづくりの新しい拠点を目指し、街発展のために大きな犠牲を払って、貢献された先人に胸を張って報告できるものになりたい。要はこれが100年間九州大学を誘致してここに出てきて、その時にいろんな協力をされた方々、しかしもう多くの方が亡くなっておられると思いますが、ここで考えてできたものが、先人の方にも納得してもらえものになりたい。そういう歴史的なものへの感謝がないと次に繋がっていかないのではないかと思います。</p> <p>その部分は4校区で出していますので、そのあたりのところを含めて議論をしていただければと思います。要は何が言いたいかということ、そこの考え方の共通認識をもっていただくと、きちんとまちの方針を出していけるのではないかと。どこでも買ってもらえばいいですよということではなく、理念と言う言葉が正しいかどうかわかりませんが、売るための、土地利用を考えるための基本というところが大事だと思いますが、いかがでしょうか。</p>
出口委員長	<p>今のご質問に関連してですが、今回の意見募集は福岡市が主催として行うのですか。あるいは福岡市と九州大学と両方でこの委員会は事務局を務めていますか、主催はどこになりますか。</p>
事務局(林)	<p>九州大学と福岡市の共同事務局として行わせていただきたいと思います。</p>
出口委員長	<p>そうだと、当然、意見募集の冒頭の文章は両方で書くことになりますでしょうか。その部分に、今言われたような話が入ってくるようになりますか。</p>
事務局(林)	<p>そうです。そのようなかたちで書いていくことを前提に資料を作っていくと考えています。</p>
出口委員長	<p>それと恐らくこの委員会の設立主旨にも関係してくると思うのですが、第1回の委員会で、今泉理事や渡辺副市長から最初にご挨拶のお言葉がありました。あのご挨拶の言葉のようなものがきちんと整理されて、記載されればよいのではないかと私は思いましたが、いかがでしょうか。</p>
事務局(林)	<p>ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>
箱嶋委員	<p>斉藤委員の意見に同感なのですが、市民の意見を求めるにあたって、我々4校区が提案したものをに入れて頂きたいと思います。今日ご説明いただいた一つの方針というのは、我々の提案が随所に入ってはいますが、我々の提案の基本条件がこの場でご審議いただいていないと思っていますので、市民のご意見いただきたいと思っています。</p> <p>我々が1000年の街、九大100年というのを踏まえて提案したものがあるので、それを踏まえた形で、トータル的なものとしてのイメージをみなさんにご意見をいただきたいと思っています。</p>
事務局(林)	<p>その点につきましては、確かに私たちもいろんな意見を踏まえて資料を作っています。その意見を踏まえた方針というものを、みなさんがどのように思われるかというのをまず聞きたいと思っています。そのうえで、いろんな意見や新しい考え方が</p>

	<p>でてくるかもしれませんが。空間構成、ゾーニング、基盤整備を煮詰めていくための材料としていきたいと事務局としては考えています。</p>
出口委員長	<p>改めて再整理していくなかで議論していければと考えています。</p>
益村委員	<p>1点まず確認なのですが、3ページでまちづくりの方針と導入機能の検討と書かれています。この導入機能というのは各1番～5番の方針の下に書かれている部分が導入機能と解釈してよいのでしょうか。</p>
事務局 (林)	<p>導入機能については、一つの例として点線囲みの部分が導入機能の例として書いてあるというふうにご認識いただければと思います。例として挙げましたものの、全部ではないですが、先進事例としてもってきたものが右側の項目というふうに思っていたければありがたいです。</p>
益村委員	<p>例えば、3ページですと、片括弧の1)、2)、3)の点線部分が導入機能と理解すればよいということですね。</p> <p>私は今回1～5として挙げられている方針について、高く評価しています。4校区の方々が毎回強調しておっしゃっていますことが、4番のまちづくりの方針のところで踏まえられていますし、これが跡地利用において踏まえるべき視点ということで位置付けられていますので、十分くみ取られていると考えております。</p> <p>また、この箱崎キャンパス跡地という地理的条件は、港にも近い、空港にも近い、都心部にも近いといったことから、とても交通アクセスがよく、利便性が高い。それだけでもこの箱崎キャンパス跡地がいかに高い潜在力を持っているのかということが明らかです。この高い潜在力をいかに活かすかという観点から方針の1、2、3があげられていますし、またさらに九大病院との連携機能もあげられています。2015年には団塊世代が65歳以上人口に全員組み込まれることから、それ以降急激な高齢化が予測され、医療や福祉ニーズはますます高まってきます。そういったことを踏まえて、九大病院と連携での医療福祉の充実といった新たな視点も入っています。この箱崎キャンパスの持つ潜在的な可能性をいかに発揮するかといったところで、いろんな視点が組み込まれ、すっきりと整理されていると思いますので、私は高く評価しています。</p>
齋藤委員	<p>今の話を聞くと、九州大学側が出ていくことそのものがしまったなと思ってしまうくらい、すごくいい方向性で、話を進めて頂ければと思います。</p>
出口委員長	<p>そうですね。九州大学が出ていったことを後悔するくらいのプランが作れるとよいですね。</p>
益村委員	<p>本委員会は将来ビジョン検討委員会なので、子どもや、孫、次の世代がこういうまちになってよかったと思うものをつくるのが使命だと思います。まちづくりの方針1～5を高く評価しているという次第です。</p>
山内委員	<p>今まで出た話、全体としては私たちの出した提案の立場からみても、評価していただいたと思って聞いていますが、若干検討が必要だと思う部分があります。</p> <p>第3回以降の検討内容が書かれていますが、これを進めていくとどうなるのかなという心配をしています。今の説明の中で方針の1、2、3、4、5のそれぞれのところで点線のところが事例ということで、それぞれ出されています。こういうもので全国に話に行くということではもちろんないと思うが、目がそういうことにだけいているのではないかと。また、例えば道州制の話などまだわからないことも含まれていますが、現実的にどうなるかわからない話を出さない方がいいと思います。前回も話しましたが、気になって仕方ないのが、私たちが出した提案は、42haを事細かく扱わないでほしいという提案なんですね。そっくりそのままこれをどのように生かすかというのが提案の趣旨です。</p> <p>いわゆる、よくまちづくりといわれますが、ぽっと町の中に空き地が出た場合に、</p>

	<p>いい形で利用するかたちのまちづくりとは違います。この場所はそういうものとは違います。一般的なまちづくりとは違うと思っています。具体的にゾーンごとでみていくほど、どんどん一般的なまちづくりの方向に近づいているのではないかと心配します。終わってみたら、いわゆる大型開発と同じようなことになってしまわないかという心配があるので、毎回話をしています。今回の説明のなかで、そういう心配はいらぬ、私たちの提案を生かした中身で考えてありますということであれば、再度説明してほしいのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>懸念されていることは、この42haが最終的に小刻みな土地に分割されて、結果的に通常の開発の寄せ集めと同じになってしまうのではないかとおっしゃいました。それは私も最悪だと考えています。できるだけ42haをまとまって跡地利用していただくのが望ましいと考えていますが、今日の資料だといろんな機能が入っていますので、土地を小刻みにしていろんな機能を次々と入れていくようなイメージにも受け取られかねないということが今のご発言だったかと思いますが、その点いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (岡野)</p>	<p>九州大学へ求められているところなのかと思いますが、このビジョン委員会でまちづくりの方針をつくっていただいた後で、大学は具体的な処分を検討していくことですので、大学として、先ほどのお話のように切り刻んで処分することは考えておりません。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>できるだけまとまった土地で利活用していきたいということですね。</p>
<p>山内委員</p>	<p>今の話は少し違うのでは。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>ご発言内容を私なりに整理させていただきますと、今日の資料では多彩な機能が列挙されていますので、できるだけたくさんの機能を入れようと目標をかかげてしまうと、土地を細分化して、できるだけ多くの機能を入れることにつながってしまうのではないかとおっしゃられていると私は受け取ったのですが、いかがでしょうか。それに対し、九大はできるだけまとまったかたちで利活用していくことを考えているというお答えだったと思います。</p>
<p>事務局 (岡野)</p>	<p>この方針における導入機能一つ一つを全てもってくるということではなく、色々な導入機能の組み合わせを考えながら、(一体的な利活用を目指すことで、)各方面へアピールしていこうという考えもございます。</p>
<p>坂井委員</p>	<p>地元の協議会からいただいた要望書というのは、伝統と文化あふれる環境や、連帯感のある地域環境、緑豊かで住み心地の良い、皆が誇りと愛着を持って安心して暮らせるまちづくりの新しい拠点というところです。ここを読み解いた上で、まちづくりの方針の中に1～5というかたちで割り振られています。特に「住み心地の良い」は「快適で」というワードになっていますし、「安心して暮らせる」は「安全安心」、「伝統文化あふれる」「誇りと愛着」は「歴史文化資源を大切にする」、「緑豊か」＝「環境と共生し」ということで、そういった3行4行を読み説いてこの方針に生かしていただいていると思います。もう一つ大事なことは、書かれていないことですが、「大きな犠牲を払って貢献された先人に胸を張って報告できる」、ここが報告書のハートの部分だと思いますので、事務局から説明があったように前段の部分で趣旨を含めていただくというのは大事だと思っています。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>事務局は方針の議論の際には、是非そういった部分を踏まえて頂きたいと思えます。</p>
<p>中村委員</p>	<p>3ページ、新たな活力・交流を生み出すということで、3つほど種類が挙げてあって、これを全部導入するというイメージなのか、どれか一つというどちらかをみなさんイメージされるかと思うのですが、真ん中の事例の広域行政機能、私がこういったものもありますとお話したので、載せて頂いていると思うのですが、面積からいうと広大</p>

	<p>で、例として異質かなと感じます。自分で話しておいてなんですが、こういった例としては入りにくいのではないかなと思います。</p> <p>それと、その下のスポーツのほうですが、これからのものなので、はたして運営がうまくいくかわからないので、例としてあてはまらないのではないかなと思います。</p>
塚原委員	<p>埼玉の新都心は47haです。ここは3つに分割されています。一つはアリーナ、一つは行政、一つは民間開発で、それぞれが14、15haくらいです。行政機構だけでも13haくらいで、土地の約3分の1位です。防災拠点のほうも13haくらいのイメージです。中村委員の言われたように、一つ入れてしまうとそれだけでかなりの面積を占めることとなります。これは東京スケールの話なので、九州スケールにすると半分から3分の1くらいのスケール感になってくると思うので、防災拠点だと5haくらい、広域行政機能が仮にきたとしても5haくらいで、機能としては5haくらいのもことになると思います。</p>
出口委員長	<p>ここに出している例示が、この箱崎の跡地には過大ではないかというごもっともな意見でございましたが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (林)	<p>ある程度イメージしていただきやすいように、少し知名度のあるところを出させていただいているということもございまして、ちょうどいい事例というのがなかなかないというのが難しいところではございます。ただこういったものが考えられるというのが何か事例があるとわかりやすいのではないかなということがございますので、たくさんの方に問うときも必要かと思い、入れさせていただいております。</p>
出口委員長	<p>中村委員のご指摘は、ご提案の例示を見たら、みなさんが驚かれるところがあるかもしれない、そのあたりをご懸念されているのではないかなと思います。事例だけで説明するのは難しいと思いますので、解釈を加えていただく必要があるかもしれないと思います。塚原先生も情報をお持ちだと思うので、ご協力いただきたいと思います。</p> <p>また、埼玉新都心の話に関連することとしては、前回は話がありました東京のバックアップ機能の話があります。福岡市でも特に財界で取り組みを働きかけようという動きが新聞にも出たりしていると聞いております。そのあたりの動きと、山内委員から道州制というまだよくわからない話を導入機能の話として入れていいのかというご懸念の話がありました。よろしければ事務局と福岡市からの委員である貞刈委員にご発言いただければと思います。</p>
貞刈委員	<p>福岡市としても首都圏のバックアップについて基礎的な調査をしているところで、経済界のほうでも首都機能についてのバックアップが必要ではないか、福岡が適地ではないか、というご発言もあっておりますし、またどのような場所がよいのか、という話になったときに、箱崎も可能性があるのではないかな、とそのような議論がなされている状況でございます。この検討会の議論でございますとか、経済界での議論、我々市の方でも検討するなかで、少しずつ煮詰めていければいいのではないかな、と考えております。</p> <p>道州制については市の内部でも色々な議論がなされております。道州制そのものについてはあまり進んでいないところがございまして。九州府、広域行政機構の話が出たりしておりますし、今すぐどうなる、ということではないかもしれませんが、大きな流れとしては道州制なり、九州府という形での変化はあるのではないかなと思います。</p> <p>ただ、5年なのか10年なのかはわかりませんが、ここ数年のうちですぐ道州制のようなものが目に見えるかたちで進んでいくのかというのは、私の立場ではなんとも言えませんが、そのような流れについての課題意識はもちながら研究は進めているところです。</p>
出口委員長	<p>議論している最中ということですが、道州制は将来的にはあり得る話ですので、この跡地との関係について、引き続き協議を進めていきたいということですね。</p>
事務局 (林)	<p>少し補足させていただきますと、首都機能のバックアップ機能について、今日、新聞記事が出ています。毎日新聞と西日本新聞に載っている記事なのですが、西日本シ</p>

	<p>ティ銀行の久保田頭取から、福岡経済同友会のほうで首都機能のバックアップ機能を箱崎キャンパス跡地にということの関係者で協力をして進めてはどうかと考えているということを書いていただいている記事が出ています。あとでみなさんのお手元にお届けしたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
安部委員	<p>財務省の地方出先機関の財務局の人間ですが、広域行政機能の話が出ましたので、少し発言させていただきます。</p> <p>財務局は、財務省の地方の出先機関として、国の庁舎を新しく造る計画や、庁舎の配置・使用効率の調整を行っております。先程来からお話の出しております、また資料3ページ2)の広域行政機能の集積・合同庁舎建設ということになりますと、当然財源の話になってきますが、国の財政状況はご案内のとおりかなり厳しい状況にあります。加えて、昨年の中日本大震災の復興財源確保に努めている状況もある中で、国の少ないお金をどこにどう使うかとなると、新しい庁舎を造るという話は、優先順位としては、当面はかなり劣後する話になるかと思っております。</p> <p>そうは言いつつ、九大箱崎キャンパス跡地の利活用につきましては、5年・10年先の話になると思っておりますので、その時に国の財政状況がどうなっているかわかりませんが、いずれにしても、財源の話、加えて、道州制・地域主権改革というような話もあり、非常に流動的な要素が多いところです。</p> <p>3ページ、2)の部分で委員の方々がどのようにとらえられるのか、強くプッシュされるのか、みなさんの総意に従いたいと思っておりますが、国の庁舎を造る造らないといった話に関しましては、取り巻く環境としまして、流動的な要素が多いということを発言させていただきました。</p>
出口委員長	<p>これまで導入機能の内容についてご説明いただきましたけれども、今話していただいたような課題、機能が導入されることの意義や波及効果なども改めて整理していただき、委員会の記録として残していただくといいのかなと思っております。</p>
箱嶋委員	<p>5ページの「災害に対応できる防災活動の場の創出」というところで、参考資料にあるアジア防災センターと、導入機能のどういう関連性があるのか聞きたいということと、防災センターであれば、我々が提案している環境、災害だけではなくてそういったことを含んだものができるのかなというところをお聞きしたいと思います。</p>
出口委員長	<p>第1回目の地元からのご提案のなかにも防災機能というのが入っておりました。九州大学でもご検討されていることでもありますので、塚原先生にご発言お願いできますでしょうか。資料も配っていただいておりますので、こちらも合わせてご説明いただければと思います。</p>
塚原委員	<p>この4月に九州大学でアジア防災センターというのを立ち上げて、その運営をやっております立場でご説明させていただきます。配布資料の別刷りのほうにアジア防災センターの概要を示しております、ご承知の通り、箱崎地区は最終的に伊都キャンパスに移転するが、災害についてもいろいろな専門家がいます。私は水ですが、火山の災害の先生、洪水の先生、いろんな方がいらっしゃいまして、災害の時に専門家がすぐに現地について対策を考えることができればいいが、すぐに現地に行くことは難しいということで、国と共同で、国の持っている衛星回線や光ファイバーを伊都キャンパスに引き込む整理をしております。左下の図をみていただきますと、今の合同庁舎に集まってくる情報を伊都に引き込んで、自衛隊のヘリが災害地に行ったときにその情報を伊都に引き込み、防災センターで我々専門家が見て、原因や対策を診断できるようなシステムを構築しようとしています。仮に箱崎で行政的な防災機能ができてくるとすれば、九大に引き込もうとしている光ファイバーは国道3号線を通るため、すぐに引き込むことはできます。我々も、九大も、箱崎を去っていったら箱崎のことはもう知らないというわけではございませんで、体は伊都に行きましても、こちらに防災拠点があれば、伊都キャンパスからご協力できるような形で進めております。専門家は伊都に移動するが、いつでもご協力できるような形で防災研究センターをやっていくと。国土交通省などからもご協力いただいて、衛星通信や行政無線などを通じ、</p>

	<p>災害時も情報をやりとりしながら九大としても地域に貢献していこうと考えています。今年度やっと立ち上がり、いろいろ施設整理しておりますので、九大が移転することにはお手伝いできる形になっているかと思えます。私も学生時代は箱崎に育てていただきまして、伊都に行きまして引き続きご協力させていただきたいと考えています。こういう機能をもった防災研究センターになります。</p>
事務局 (林)	<p>アジアというようなところで今の話と、前回資料に出てきましたように、もう少し大きな話で本当にできるかは別としまして、国を超えた防災連携のような話もございまして、地理的に韓国や中国と近いということもあって、そういうことも視野にいれることを考えられるのではないかとということで事務局としては考えています。</p> <p>環境の面ですが、防災の部分を通常時どのように使っていくかという点で、この施設をどのように活かすか、どのように機能を病院と連携していくかというときに、最後の方針の5番目にも書かれていますけれども、環境に持続可能なエネルギー、5つの方針がいろいろ組み合わさったものが形づくられるべきではないかと考えていますので、そういったなかで、環境という研究の部分をフォローしていくこともできるのではないかと考えています。</p>
芝田委員	<p>質問を含めてですが、市民の意見をひろっていただけるとのことですが、その時に、ただこの何々はどうですかということだけでなく、我々4校区の提案や周辺地域がどういうところなのかという前段もいれて、意見をいただいてひろっていただきたいというのが一つあります。もう1点はどういうものがくるかによって変わりますが、1回目から3回目までのなかで42haの土地が現状もしくは将来的に、経済面で、商業的なシェアでどんな感じなのか。経済的に大きな力を生み得るところなのか、交通のアクセスも現状のものでどうか、貝塚駅の話は出ていましたが、これが変わることによってどうなるのか、専門家の方もせっかくたくさんいらっしゃるのでお聞きしたいというのが地元としてはあります。</p> <p>また、市の議会で九大跡地対策委員会ということで、選挙で選ばれた代表の方が出ていらっしゃると思いますが、我々の代表としてどのように動かれているのか、この方々の活動の現状を聞いてみたいと思います。</p>
出口委員長	<p>2点ございました。一つ目は、それぞれの分野でご活躍いただいている方に委員に入っていただいていますので、委員の方々にこの後ご発言を求めたいと思いますが、導入機能について、事務局で整理していただいているものに対する可能性や効果について、またこういうものもあるのではないかとのご意見や、見落とししているものもあるかもしれませんので、この地域にふさわしいものや、こういった機能を導入するときに交通アクセスやインフラ整備など、必要なものもコメントいただければと思います。</p> <p>二つ目の後半の部分に関しては、事務局にお答えいただくことでよろしいでしょうか。市議会で地元の代表の方が委員として、九大跡地対策委員としてということでしょうか、どのようにして活動され、議論をされているのかということを確認したいということです。</p>
事務局 (林)	<p>九大の移転に関わる議員さんで、九大協（九州大学移転・跡地対策協議会）といわれる組織が活動をしていただいています。毎年1回九大の動き、移転の動きから、こういったビジョンの検討の動き、六本松周辺の開発の動き等をご報告させていただいて、意見をいただくという定例会議をしています。同時にこういった関連する新聞記事が出たり、九大に関するものが出た時に、行政の情報が入ってきたときにお知らせして、そういったことをきっかけに意見交換しています。議会のなかでも応援をしていただきながら、私どもの事業を進めているという状況にございます。</p>
鈴木委員	<p>基本的なまちづくりの方針につきましては、先ほど益村委員からもありましたように非常によく整理されていて、地域とのつながりというものを、42haで考えるだけでなく、広域で考えているスタンスがはっきり出ていて非常にわかりやすくなったと思います。一方で、この先議論を深めていくと、先ほど、山内委員からありましたが、</p>

	<p>どういふふうなゾーニングをして、言葉を選ばずにいうと、どういふふうな処分を考えているのか、市民に対して聞かれるときの聞かれ方の問題として、市民に聞かれるときは例示で出すのはよいが、例示に対してどの程度の情報をどういふスタンスで出すかによって、たいぶ受け取られ方が違う。具体的には今あげていただいている例でどういふ方がプレーヤーで、それは国なのか、自治体なのか、民間企業なのか、誰がやっつけられるのか、普通の方がご覧になるとわかりにくいケースも多いので、もし例示をされるのであれば、そういった情報も出していただくと、プロジェクトに対する市民の方のイメージもしやすい。もう一つ、芝田委員から話がありましたけれども、それに伴って、どういふインフラが必要なのかのイメージもつかみやすくなると思うので、効果といったものを出されるかどうかはわかりませんが、例示の出し方を工夫していただくとよいかと思ったのが感想というか意見でございます。</p>
漆間委員	<p>まちづくりの方針が今回5項目にまとめられております。前回と比べ、非常にわかりやすくまとめられていて、コンセプトも明確になっていると思います。これから次のステップを考える際に、この中で、中核的機能、または優先度といいますか、そういったものを求めていくことになるかと思ひます。その際に必要になってくるポイントが3点。まず最初に、ここにしかない、日本に1つしかない、というようなプラスのいいイメージをもてるもの、2番目には、将来に渡って発展の可能性があるもの及び付加価値を作り出していけるもの。3番目に周辺地域との共存。そういったポイントを考えて今回の方針をもう少し見ていきますと、個人的な見解ですが、1-1)の新たな産業雇用の場の創出について、産学官民連携で何かアイデアが出てくれば経済的な効果も増してくるのではないかと。また、新たな産業構造によって付加価値も出てくるのではないかと。また、2-1)の教育研究機関、これも九大のDNAの結晶という意味では欠くべからざるものだと思います。こういったものを中心として次のステップで絞り込んでいければよいのではないかと。先ほど首都バックアップ機能の話がありましたが、一つの重要なアイデアとして注目していけばよいのではないかと。思ひます。</p>
出口委員 長	<p>今日出していただいた導入可能性のあるものは羅列の形だが、核になるものが必要で、核となる機能と核に付随して必要になってくる機能を整理していく必要があるのではないかと。思ひましたかと思ひます。</p>
田代委員	<p>今日出していただいた方針案の5つは非常に良くまとめられていて、今後考えられ得る機能がいろいろ考案されている点でよいと思ひます。今から発言する話は、何を今さらというように根本的な話で恐縮なのですが、方針2の「充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる」というところのなかに、教育、人材育成機能と、教育研究機関と言ったことが書いてあります。九州大学にとって、福岡市にとって、この場所をどう使うか、どうあったらよいかという点で、九大の都心の拠点として考えたほうがよいのではないかと。思ひます。九大は博多駅にサテライトを作りましたが、非常に手狭です。今後少子高齢化で、18歳以下の若者人口が減っていくなかで、社会人教育が非常に大事になってくるかと思ひます。文系の社会人は、私などもそうですが、大学に勉強に行こうと思つたとしても、伊都キャンパスまではなかなか行く気がしない。博多駅のサテライトが使えればよいのですが、実際に使おうとしても、使いづらい。私どもも九州大学と協力して「地域政策デザイナー養成講座」を行つていますが、博多駅のサテライトも、九大西新プラザも使えなかつたりして、筑紫キャンパスを使つたりしています。教える側の人材も必要です。もちろん教える側の人材は九州大学にたくさんいらっしゃるわけで、そういった意味では九州大学が、一般社会人や企業とつながる場所として都心に拠点が必要ではないかと思ひます。また、発祥の地というのは大事だと思ひます。九州で100年続いた企業さんは八幡製鐵所も、長崎の三菱重工も、久留米のブリヂストンも、延岡の旭化成も、発祥の地はそれなりに大切にしています。渡辺与八郎さんが九大を誘致して100年以上たちましたが、なんらかの形で発祥の地というのは大事にしたほうがよいと思ひます。私自身は九大OBではないのですが、世の中にはたくさん九大のOBの方がおられて、心のふるさととして大事な</p>

	<p>のではないかと思います。関東の私学も郊外にキャンパスを移しているところが多いですが、都心のキャンパスも残しているところが多いのではないかと思います。根本から蒸し返すような話で恐縮なのですが、一つの選択肢として、九大の都心の拠点があるのではないかと、今さら遅いかもしれませんが、そのように思いました。</p> <p>それと、首都機能のバックアップについてですが、九経調と同じオフィスに福岡経済同友会が同居しております。同友会の話を知ると、元々、東日本大震災対応特別委員会というのが震災以降できまして、いくつか議題があったなかで、首都機能のバックアップというのがクローズアップされてきたということです。7月末くらいに提言書をまとめるということでした。内容はまだ出せないということで、出るのを待つしかありませんが、震災対応特別委員会がそのまま名称を変えて、首都中枢機能誘致委員会（仮称）として、経済界では議論が進められるということでした。</p>
出口委員長	<p>ご意見としてうかがっておくということでもよろしいですかね。先ほど、防災ご担当の先生として、塚原先生もお話しされたようなことが本当の気持ちだと思います。統合移転というプロジェクトは、全てを伊都に移すという計画だと思います。今のご発言は、恐らく残すということではなく、新たにつくるというご提案と受けとめた方がよいかと思いましたが。</p>
田代委員	<p>文化財級の建物を使いつつ、新たに移転してくるというようなことです。</p>
出口委員長	<p>ご意見として受けとめておきたいと思います。</p>
三浦委員	<p>「伊都に行く気がしない」といわれると切ない気持ちもありますが、先ほど防災関係の話もありましたし、博多駅の話もご紹介いただきましたが、例えば博多駅の場合は、ビジネススクールとして教育機関としてふさわしい組織、形態がどうかという議論のなかであのような形態をとっています。分野なり、社会人の方々にどう勉強していただくか、産学連携の話もありましたが、どこで教育・研究をするのがいいのか、という検討のなかで、箱崎の跡地で九大が積極的に参加できる場所があれば是非参加させていただくということになろうかと思います。</p>
松田委員	<p>課題の優位性の整理を前回からかなりしていただきましたが、少し気になる所がありますので、お尋ねしたいと思います。まず、課題というより問題点が挙がっているので、課題というのは前向きなところもあると思います。前向きなところを上位計画、関連施策のなかに盛り込まれているところがあると思うんですが、2ページ、真ん中のところで、何が課題なのかということが明らかになっていないと思います。といいますのも、箱崎のこの土地だけで福岡市のすべての課題が解決できるわけではありませんが、少なくとも福岡市都市圏が抱えている都市としての成長の課題があるとしたら、それをこれだけ優位性のある場所で解決の可能性を見出すとしたら、本当に何が課題なのかということが曖昧なまま、この地区のもつ優位性や可能性だけで議論が進むところに少し懸念しています。</p> <p>福岡市都市地域の課題として、このアジアに向けたさらなる需要喚起が必要ということがありますが、この部分は前回の記載では大都市に比べて国際的な知名度や後背地の集積が劣っており、さらなる需要喚起が必要というふうになっていました。このアジアに向けた需要喚起ということが、もう少し具体的に本当に何を取り組むべきことなのかということが必要になるのではないかと考えていることと、関連して、就業構造の転換、社会人の新たな教育の必要性に十分対応できていないということが課題になってこないか、この具体的なまちづくりの方針の1や2につながっていかないのかと思います。</p> <p>前回は申し上げましたが、財源の厳しさがどこにもあがっていないので、それが前提ですということなのかというのが気になりました。</p> <p>先ほど塚原委員からのお話をいただいた、大規模な光ファイバーの話がありましたが、もし仮にそれが使えるということであれば、優位性に入れる事ができると、整理をしていくときにわかりやすくなるかと思います。</p>



<p>出口委員長</p>	<p>2ページ目に前回の意見を踏まえ、簡潔な言葉で整理をさせていただいていますが、地区の優位性、地区の課題というところと方針との関係が見えてきていないというご指摘だと思います。例えば、アジアに向けてのさらなる需要喚起という部分でも、もう少し具体的な、もう少し深く掘り下げて箱崎との関係を説かないと、方針にも反映されないのではないかと思います。むしろ、そういった点は田代委員のご専門なのかという気もしますが、九経調としていかがでしょうか。これまでのご経験からそういったものがあれば、後ほど、ご発言お願いしたいと思います。</p> <p>また、財源の厳しさや、事業性に関連するお話もありました。鈴木委員からもご発言があった市民意見の聞き方で、欲しいかと聞いたら欲しいという話になるだけだと思ふので、そういうものが立地するためにはこのような条件が伴いますということに合わせて尋ねないと、有意義な市民意見を募集したことにならないのではないかと思います。単に機能の可能性を列挙するだけではなく、それに付随する事業性や課題や財源も考える必要があります。つくるときにお金があっても、それを維持していくことができなければ破綻していくので、持続可能なまちづくりになりません。そういうことが懸念される施設ももしかしたらこの中に挙げられてしまっているのではないかと思います。中村委員からのご指摘もありましたので、そのあたりも踏まえて導入機能を整理していく必要があるかと思ひます。</p>
<p>田代委員</p>	<p>国際的というところで、福岡はアジアに近く、自分たちはアジアに開かれた国際都市だと思っているわけなのですが、今、世界の多国籍企業というのは、久留米大学の永田先生の言葉を借りると、人工衛星から世界を眺めて世界のどこに投資したらよいかを考えている。そのときに見えなければ、投資の対象にならない、国際都市にはなれないというような、国際都市的な大都市圏の競争になっています。福岡は海外に出ると、まだまだ知られていない部分が多いと思ひます。単に人口が多ければよいということではなくて、きらりと光る企業がある、とがっている企業がある、すごい大学の先生や研究者がいるといったように、とがったものがあると、それなりに目立つわけです。今のところ、福岡、九州は、そういうネタを持ちながら活かしていないところがあるかと思ひます。そういったところでもこの箱崎のまちづくりというのは、ここに出された方針から、いくつか取り出したとしても、知名度をあげるために使える可能性があると思ひます。</p>
<p>山内委員</p>	<p>今の九経調の田代さんの意見の関係でいいますと、九大の先生にこれから10年先、きらりと光ってもらわないといけないということだと思ひます。</p> <p>委員長におたずねしたいが、市民意見をどのように聞くのか、中身をどうするのか、アンケートは難しく、聞き方によって結論の出方が違う。検討委員会としてのアンケートではありませんが、九大と福岡市に事務局に任せきりではいけないと思ひるので、誰に聞くのか、市民全員に聞くわけにはいかないと思ひるので、どのように聞くのかを知りたい、というのが一つです。</p> <p>我々が出した提案では、これ以上「箱もの」はつukらないという大原則になっています。耐震補修は必要だが、今の建物を利用して残すと提案をしています。この2ページから先の今後の課題で出ている新しくつくっていくんだという提案ではないということを理解していただかないといけないと思ひています。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>市民意見の募集の仕方についての話がありました。後ほど事務局にご説明いただくかと思ひておりましたが、事務局ご説明よろしいですか。当然、この委員会もかわる話なので、私も委員長として確認をさせていただきたいと思ひています。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>委員長のご確認はご協力をよろしくお願ひします。</p> <p>今考えています、市民意見募集の範囲なのですが、福岡市ホームページ、九大のホームページを通じて、若い学生、市民の方を対象とさせていただきたいと思ひます。ホームページに載せるだけでは周知できませんので、市政だよりを含め、市民の方に広く伝えてみていただく努力もしたいと考えています。内容につきましては、今回目的としているまちづくりの5つの方向性を中心にこういった考えについて、どのよう</p>

	<p>に理解されるか、今出口委員長から言っていただきました、その項目についての持続性、効率性は配慮できるところは配慮しながら、跡地の利活用についてご意見いただければと考えております。</p>
出口委員長	<p>市民意見募集は膨大な作業が伴うので、事務局には是非効率よくやっていただきたいと思います。基本はホームページ、市民だより等の広報誌を全面的に使って意見募集するということですか。</p>
福原委員	<p>かなりご意見がでたので、感想だけお伝えさせていただきたいと思います。方針はわかりやすくなりました。次のステップとして進んでいくにあたって、8ページ、導入機能の検討のところ、特に都市基盤のあり方というところで、道路や歩行者の動線というものをどう考えるか、今の資料ではわからないので、事務局で現地の道路形態をよくみて把握していただきたいと思います。</p> <p>将来ビジョンを今つくって、さらにまた将来変わっていくことを考えるとあまり不必要に道路を造り過ぎないように、必要なものだけをつくっていくという観点は大事だと考えています。</p>
出口委員長	<p>URさんも都市開発のプロ集団ですので、具体的なアドバイスを是非いただけたらと思います。</p>
馬場委員	<p>先ほどから山内委員もご心配されていて、一般の方が気になるところの一つだと思いますが、今導入機能の話などが中心ですが、どういったまちの形になるのかというのが気になるのではないのでしょうか。おそらく、今、道路の話もございましたが、各ブロックが大きい道路で隔たれた一般市街地のような街並みというのではないと思う。個人的にもなくしたいと思いますので、せっかく1つのまとまった土地ですので、いろんな機能が導入されるとしても理想的に言えば、ひとつのコミュニティとして、関連し合うもの同士がつながれているようなそういった形での市街地という言い方がよいのかはわかりませんが、新たな大きなコミュニティとしての跡地利用になるのが理想ではないかと思います。イメージではございますので、まちのかたちというのをいくつか議論しなければならぬのかと思います。市民意見でも機能だけでなく、空間的な点について聞けるのであれば聞いてもいいのかなと思います。</p>
出口委員長	<p>将来ビジョンの構成案というのがここに提示されています。まだ構成案の段階ですが、都市基盤のあり方について、どうあるべきか、こういう機能を導入するに際して、都市基盤がどうあるべきか、どういうまちであるべきか、まとめていくことになると思いますので、その中でまたご意見いただければと思います。</p> <p>そろそろ終わりの時間も近づいてきておりますが。</p>
貞刈委員	<p>いくつかあるのですが、細かなことからお話ししますと、もう少し九大として歴史資源を活用するべきでないか、という意見がありました。私も賛成で、今の九大の煉瓦造りの事務局や工学部の本館等、いずれにしても文化財的価値のあるものだと思いますし、九大さんとしても活用されてもいいのでは、と思います。名古屋の裁判所の事例など名古屋市に無償で貸し付けをされているという事例もありましたし、そういう方法も含めて歴史のあるものを現代に活かすというような視点は大事な、と思います。様々な考え方がありますので、考え方の一つということで。</p> <p>一方で、これだけ大きな場所を整理していくということですから、新たな建物はいらぬ、ということではなくて、今は公共でなくても民間の役割もありますので、全体のビジョンに合致しているのであれば、できるだけ融通の利く形で計画を立てられたらどうかと思います。</p> <p>もう一つ、先ほどバックアップの話がありましたが、新聞記事などにも出ていますように、経済同友会の動きなどを念頭に発言しておりましたが、福岡市としては首都圏機能のバックアップについては手を挙げて、一翼を担いたいといひますか、推進していきたいという立場です。経済界もご理解を示されておりますし、場所についても箱崎は候補地の一つではないかと考えています。ただ、それがどのくらいのボリューム</p>

	<p>ムなのかは、国の政策によるところもありますし、バックアップをする場所が全国で1つなのか2つなのか、そういったところは今後国のほうでも検討がなされていくと思います。また、博多の合同庁舎の移転の話は前回も今回も挙がっていますが、これは国の考え方によるところが大きいと思います。そのあたりの情報は我々としてもしっかりととりながら、国に対して色々なお話し合いや提案をさせていただくなかで、話を詰めていく必要があると考えています。今回の資料の中にありました埼玉新都心の事例のような大きなものでなくても、今後色々と協議してコンセンサスがえられるようなものがあればしっかりと詰めていく、というのが福岡市の立場です。</p>
出口委員長	<p>福岡市の担当局から、現状を踏まえたお話がございました。文化財の話が出ましたが、この委員会の中でもご紹介ありましたが、ワーキングをされているということだったので、坂井先生お話をお願いします。</p>
坂井委員	<p>九大のなかで、大学がそれをもつかどうかは別としまして、建物自体が残す価値のあるものか、評価をしようとして学外の方を含めてワーキングをしています。建築様式の話、構造の話、もつかどうかということ、社会的機能として耐えうるかという全般的な評価を、秋口にアウトプットを出そうとしてやっています。</p>
出口委員長	<p>以前この委員会でも紹介がありましたが、九州大学で建築物の評価、ワーキングを進められているということです。予定終了時間を若干過ぎていますが、何か意見ございましたらお願いします。</p>
斉藤委員	<p>2回目の時も少し話をしたのですが、この箱崎、松島、東箱崎、筥松エリアはこの地区の活性化のためにまちづくりを一生懸命やり、みなさんが頑張っています。ここで話すことではないかもしれませんが、そのまちづくりの状況というのを、実際に参加していただく、まちの「曲（くせ）」や「におい」を体で感じていただくとありがたいかなと思います。具体的には9月12日～18日までの放生会、まだ許可をとっていませんが、九大記念講堂をつかっただけの大きなイベント、10月6日に水辺のことを意識してJRウォーキングのコースを決めております。JR九州箱崎駅のウォーキングは、今年で第5回目ですが、筥松校区が共催させていただいています。また、地元の協賛企業も出てきています。コースでは九州大学のキャンパスも例年入らせていただいております。そのときにいろんな歴史的な説明を九大の学生さんの協力でしていただいております。このような活動に参加していただくとここで議論していることに加えて体で感じていただけたらと思います。</p>
出口委員長	<p>はい、是非、ご参加いただければと思います。最後、副委員長からご発言をいただきたいと思います。</p>
坂井委員	<p>先ほどのお話で箱崎の動きを体でわかってというお話もございましたが、学生が地元にお話し伺ってという活動がありますが、今日も学生が何人か聴講にきていますが、大学のメンバーも一緒になったようなまちづくり、私も10月6日は手帳に書きましたが、まちづくりを一緒にやらせていただく場がどんどんできるとよいと思っております。勉強会、懇親会だけではなく、いろいろとインフォーマルにお付き合いできればよいと思っております。</p>
出口委員長	<p>密度の濃い2時間強の議論をいただき、ありがとうございます。委員長として心から感謝申し上げたいと思います。</p> <p>これまでにいただいたご意見や前回までの議論を踏まえ、本日は、まちづくりの方針案の再整理をしていただきました。概ね賛同いただいた意見だったと思いますが、合わせて、実現させていく機能の可能性については、課題や懸念、整備の条件も照らしあわせながら整理をする必要があるというご意見をいくつか頂きました。</p> <p>その中で、特に財源の厳しさ、これは日本の国全体がそうですけれども、あるいは事業性といったものや、跡地を再利用した後に、利用し続ける上でのコストといった維持の面から見た持続性が課題整理や方針の中で、もう少し整理され、我々の共通認識として持つておくべきではないかということをも1点、私のほうから加えさせていた</p>

	<p>だきたいと思います。</p> <p>方針の5番目に、環境と共生し、持続可能なまちをつくとあるのですが、ここでいう「持続可能」とは、中身を見ますと、環境負荷を減らすという意味での「持続可能」に限定した意味で使われていますので、事業性という意味での持続可能性を共通認識として記載していただければと思います。ある意味では方針に挙げるまでもない前提条件になるのかもしれませんが、どこかで共通認識として記載していただければと思いますし、恐らく、それが今後、跡地利用を進めていく上での一つの大きな評価項目になってくると思います。以上、1点を追加させていただき、私のまとめとさせていただきます。</p> <p>市民意見募集の作業は、事務局に中心になって進めていただくこととなりますが、私も委員長として、内容の確認をして進めていければと思いますので、ご了承ください。それでは進进行を事務局にお戻しします。</p>
5. 閉会	
事務局 (岡野)	<p>本日はお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございました。次回は市民意見募集のとりまとめ作業の時間をいただきたく、9月ごろの開催を予定しております。詳細は後日ご案内いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、第3回九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会を閉会とさせていただきます。</p>

以上